

## 無災害職場15の年輪

大町・白馬担当区事務所 今井辰雄  
“ 宮沢 広人

### はじめに

国有林野事業の経営改善を推進する大きな柱の一つは、安全衛生管理計画の推進である。

特に計画推進の要は、意識の昂揚と実践であり、現場第一線のやる気と迫力であるが、私達の職場に病気と災害がなければ、どんなにか明るく、楽しく、充実した日々が続くことだろうかと考える。しかし、現実には年々高齢化する職場をみると、いかにして病気がかからないようにするか、また、厳しい私達の職場である山林内でどのようにして安全を確保するかと言うことが、国有林野事業推進の要諦となるゆえんである。

業務の完全遂行、能率性の確保、健全な身体とゆきとどいた安全管理の実践があればこそ実施出来るものだとしている。職場における安全衛生は、直接的な技術開発、作業方法の改善と言ったものではないかもしれないが、明るく職場の確立、業務の遂行には、まず健康体であり、しかも安全確保が基礎をなしている。「健康十安全」が、その根底にあることが必要である。

当白馬担当区部内では、昭和39年11月3日以来、15年間20万時間余の、無災害職場の樹立を達成した。そこでこの15年間のエネルギーはどこにあったかを分析し、今後なお無災害職場継続の一つの節目に当たって発表するものである。

### 1 職場構成と条件

現在定員内2名定員外5名(5~18名)で、白馬国有林5,200haの管理と山造りに努力している。

当部内は、糸魚川静岡構造線の縦断に伴う複雑な地質構造を示し、造林地内に地滑りか所等あり、地形は急峻軟弱で足場の悪い現場環境にある。積雪は、担当区事務所で2m、国有林内造林地で3~4mぐらいあり、また、年降水量は1,900mmである。その他、夏山、冬期のスキー場として観光開発された地域で、交通量が非常に多く、特に県外車の入込みが目立つところである。

### 2 無災害15年の足跡

年度別の無災害時間は表-1のとおりである。この間無事故無疾病を目標に全員が努力してきた結果であり、その原動力となったのは、安全への意欲が高くなったことと、創造実践へ7人の侍が力を結集してきたことにあると考えている。

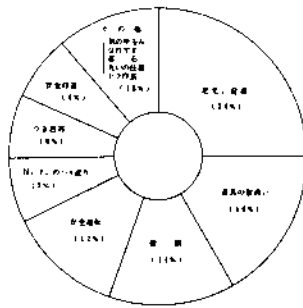
### 3 標語が示す安全意欲

当白馬担当区では、毎年の安全標語募集には積極的に全員が応募し、毎年のように入選者を出している。(表-1参照)これら標語は、日常業務の中で実践していること及び実践してきたことが基礎になって作られているところに特徴がある。例えば、「馴れは敵初心にかえてなお注意」という入選作がある。職場の中では馴れは敵が合言葉ようになり、生きた標語となっている。また、みんなが考えた作品は、造林宿舎に掲示し、安全衛生活動の支えにしている。

#### Ⅳ 安全衛生日誌の活用

安全衛生日誌は、現場と事務所を結ぶ太く大切なパイプである。1人1週交代の安全当番が朝のミーティングで、当日の安全目標を話し合うとともに安全衛生日誌にその要旨を記入しみんなで実践している。また、署から月別安全衛生活動の具体的方針がめされると、白馬山の現場にあわせたものしながら安全に徹した作業をしている。ミーティングの内容は図-1のとおりである。職場では、安全衛生日誌を書くことは、責任感とケガをしないと安全意識に通ずるものとして肌身に感じている。またこの山でこの作業を安全に進めるスリーポイントは何かを全員できめ日誌に書き、実践できたか否かをチェックしてきた。主なスリーポイントをあげると表-2のようになる。特にヒヤリ災害は記録して反省材料とし、私達の職場から災害ポテンシャルの排除にみんなが心血を注いできた。

図-1 ミーティングの内容



#### Ⅴ 和があればこそ

どんな秀でたプレーヤーでも、個々のプレーだけでは、そのチームの勝利には結びつかない。職場の能率性の向上及び安全確保は、担当区全員の和があってこそはじめて達成され、無災害職場をみることが出来る。互いに注意し励まし合い悩みを解消することに、誰一人としてソッポを向く人もなくみんなが家族また兄弟夫婦のように、スクラムを組み、一度決めたことはみんなで守る努力が、この年輪の一つ一つをみやし15としたものである。一口に和と言っても、一朝一夕ではできない。長い

表-1 労働時間と入選標語数

年度別	人員	労働時間	標語入選
39.11.3~	20人	6,413 <sup>R</sup>	0
40	20	24,832	1
41	17	22,632	1
42	11	15,528	0
43	9	15,088	1
44	9	11,596	1
45	7	11,695	1
46	7	11,481	0
47	7	11,908	1
48	7	11,400	1
49	7	11,596	1
50	7	10,822	2
51	7	10,048	2
52	7	11,248	1
53	7	10,302	4
~54.12.31	7	10,555	2
計		207,144	

表-2 作業別スリーポイント

作業種	除 植		倒 木	下 地	歩 道	収 穫
	伐	付				
スリーポイント	◎	◎	◎	◎	◎	◎
足 場	◎	◎	◎	◎	◎	◎
突 眼	◎	◎	◎	◎	◎	◎
道 具 の 扱 い	◎	◎	◎	◎	◎	◎
上 下 作 業	◎	◎	◎	◎	◎	◎
落 石	◎	◎	◎	◎	◎	◎
通 勤 路	◎	◎	◎	◎	◎	◎
蜂	◎	◎	◎	◎	◎	◎
枝のはねかえり	◎	◎	◎	◎	◎	◎

歳月をかけて今日に至っている。一人一人の考えも行動も異なっている者同志であるが、気楽に語らい冗談も言えるふんい気にするのではないだろうか、いかに和と言うものやチームワークが大切であるかは、スポーツばかりでなく、職場でも家庭でも同じことである。お互いを信じ合うことから出発してきた。

#### Ⅵ 交通安全への配慮

白馬村は、北アルプス北部にあって登山やスキーのメッカである。夏は白馬の大雪山(日本三大雪渓の一つ)と天然記念物のお花畑そして白馬三山を擁して、その入山者約15万人に及び、テニスコート120面、アーチェリー、グラウンド等の施設もあって、大学・高校の夏季合宿でにぎわい、また冬はスキー場に訪れるスキーヤーはなんと60万人、そのために入込車も多く、都会の若者が山間道路を飛び回るなかで、朝夕のミニバス運行には、異状なほど神経を使っている安全運転に徹し、無事故で現在に至っている。

1. 交通法規の遵守
2. 速度制限の厳守
3. シートベルトの着用
4. 防衛運転の励行
5. ゆとりとゆずり合いの運転

これらを中心に交通安全を図ってきた。

#### Ⅶ 無災害職場に心配はないか

こうした15年の無災害記録の達成は完全であったらうか、決してそうではない。一面からみれば偶然であったかも知れない。どんなに苦労してもちょっとした気のゆるみから事故は発生するものである。この15年間を通じて心配、悩みの連続であった。しかし、創造と英知に加え、自分の体は自分で守ろうとする信念と、全員が作業基準及び心得等を守る努力に徹したことが、この記録につながったものであると考えるが、その他基準にない人間の心情や、心理を見抜き指導にあたってきた班長の力も見逃すことは出来ない。

今後も災害の発生する素地は至るところに転っているが、その一つ一つをとり除いて、いつまでも白馬の職場を災害から守ってゆきたい。これがよい山造りに大きく貢献するものと考えている。

#### む す び

以上、白馬担当区における15年の節目に当たっての反省と、無災害職場について発表したが、

1. 職場に和があること。
2. 相互注意とミーティングの充実
3. 安全標語は日常活動から
4. 安全衛生日誌の有効活用
5. 各人の自覚と実践

等々が、長い間の無災害職場を築いてきた大きな要因であると考えられる。

前述のとおり、心配の多い危険が到るところにある職場であり、しかも高齢化して行く中で、安全と健康保持を図る為に、今後もみんなの努力や和で、これを乗り切っていくことが、今の国有林の財政再建を支え、改善計画を推進してゆく最も重要な柱の一つでなければならないと考えている。